

中高一貫教育校の設置に係る検討経過について

1 教育委員会での審議

「横浜市立中高一貫教育校の設置に関する基本方針（案）」及び関連する
請願（7件）を継続審議中。

- 7月28日（火） 臨時会（議案第23号「横浜市立中高一貫教育校設置に関する基本方針(案)」提出）
- 8月4日（火） 定例会（南高校関係団体への説明会（教育長出席）報告）
- 8月25日（火） 臨時会（市民アンケート実施報告、請願報告）
- 9月8日（火） 定例会（市民アンケート実施報告）

- 9月29日（火） 臨時会（請願意見陳述）
- 10月13日（火） 定例会（「育てたい生徒像（案）」提示）
- 10月27日（火） 臨時会（議案第23号(修正案)提出）

2 南高等学校関係団体との意見交換

「南高校PTA・同窓会・後援会に対する説明会」＜8月1日（土）＞
中高一貫教育校の設置に関する基本方針の説明、意見交換（教育長出席）
その後も南高校関係団体との間で、引き続き意見交換を実施。

- 10月5日（月） PTA・同窓会・後援会に対する意見交換会
- 10月7日（水） PTAとの意見交換会
- 10月10日（土） 同窓会長との意見交換会
- 10月16日（金） PTA・同窓会・後援会との意見交換会
- 10月24日（土） 第2回「併設型中高一貫校南高モデル推進会議」への出席
- 10月31日（土） PTA・同窓会・後援会との意見交換会

3 市民からの意見募集

- 1 意見募集期間 8月10日（月）～9月25日（金）
- 2 配布数（各区役所及び港南区内公共施設） 348枚（設置数1104枚）
他 横浜市教育委員会ホームページに掲載。
- 3 寄せられた意見 34（賛成と思われる意見6 反対と思われる意見25 その他3）
（主な意見）

- ・経済的に負担の少ない市立の中等教育学校をぜひ設置してほしい。
- ・中高一貫教育の意義・効果は認められている。市が提供することは素晴らしい。
- ・教育効果等の効率性の観点では、「中等教育学校」が合理的である。
- ・合格までに学校以外の教育が必要となり、経済的に負担がかかる。
- ・一貫校になると地元の子が通う質の良い高校がなくなり、大変困る。
- ・知育に偏重している中高一貫教育校に反対。

横浜市立中高一貫教育校の設置に関する基本方針（案）

1 はじめに

- (1) 中高一貫教育校は、中学校と高等学校の6年間の学校生活の中で、創造性や豊かな個性を伸ばすことを目的として、学校教育法の一部改正により**平成11年度から導入**され、これまでに**全国で334校が設置**されています。
- (2) 本市では、**魅力ある市立高校の実現**を目指して、横浜商業高校の国際学科や横浜サイエンスフロンティア高校理数科の設置、定時制の見直しなど、高校改革を推進してきました。また、中高一貫教育校についても、平成10年度から検討を重ねてきました。
- (3) 本市が設置することによって、市民ニーズが高い中高一貫教育校を、**経済的負担が少ない公立校という選択肢として提供**することができます。

2 設置の意義と期待される教育効果

中高一貫教育校を設置することによって期待される教育効果は、次のとおりです。

- (1) 生徒が6年間、**高校入試の影響を受けず**に、安定した環境の中で余裕のある学校生活を送ることができます。
- (2) **6年間の計画的・継続的な教育活動**を展開することができます。
- (3) 学年の異なる生徒同士が、特別活動や部活動などの共通の活動を通し、**社会性や豊かな人間性を育成**することが期待できます。
- (4) 6年間にわたり、将来の横浜を支えていく子どもたちの**優れた才能を発見し、個性豊かにたくましく育てる**ことができます。
- (5) 6年間一貫した教育の視点に立って、**横浜の様々な分野で活躍する、志の高いリーダーとなる人材を育成**することができます。
- (6) **経済的理由にかかわらず、中高一貫教育校を選択**できます。

（裏面あり）

3 設置予定校

次の理由により、南高等学校を設置予定校とします。

- (1) 創立以来、半世紀の伝統と実績があり、**広く市民から信頼**が寄せられています。
- (2) 国公立大学への**進学実績**など、一定の評価を得ています。
- (3) 敷地面積が市立高校の中では最も広く、**施設設備が充実**しています。
- (4) 南高等学校では、これまでに「**高い学力を身につけた、将来のリーダーの育成**」を目標に掲げ、**横浜の将来を担う市民**を育てることを使命としてきました。

4 設置形態

中高一貫教育校の特色を活かすために、次の理由により、**中等教育学校**とします。

- (1) 併設型のように教育課程を2つ用意する必要がなく、生徒全員に対し一つの教育課程で6年間、系統的な指導ができます。
- (2) 併設型に比べ、より多くの授業日数を確保でき、新たな教育活動を展開することが可能となります。
- (3) 生徒全員が6年間を通じて、異年齢集団の中で、人間関係を構築することにより、社会性や豊かな人間性を育成することができます。
- (4) 一体的な職員組織を編成することで、6年間を通じて一層計画的な指導に取り組むことができます。

5 学校規模

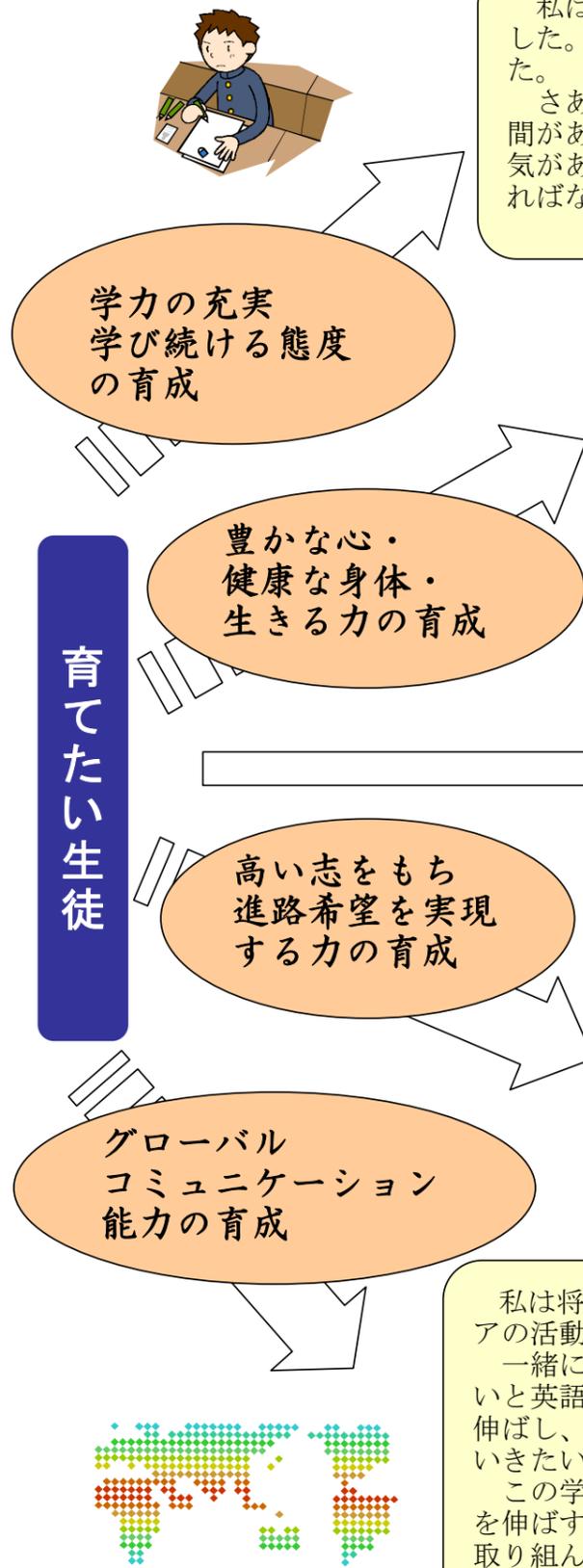
1学年4クラス、160名定員（男女各80名）

6 開校までのスケジュール

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
教育内容	○教育目標と教育内容の検討	○教育課程、学校行事計画の決定 ○教科書採択方針	○教科書採択	○開校 (中学校学習指導要領完全実施年)
職員配置	○職員配置計画立案	○中高の免許のある教員を配置		
施設設備	○施設改修計画立案	○施設改修の設計	○施設改修実施	
適性試験	○試作問題の作問	○試作問題公表 ○適性試験作問	○適性試験等による選抜実施	
広報	○計画公表	○学校説明会	○学校説明会	

横浜市立中高一貫教育校の育てたい生徒像

参考資料



私は文化祭実行委員長でした。心に残る文化祭にするために、委員と協力しながら企画運営をしました。結果は大成功。終わった後は涙が止まらず・・・。うれし涙のすばらしさをはじめて知りました。
さあ、次は進路です。この学校は行事が盛んですが、学習面でもじっくりと落ち着いて取り組む時間があります。前向きに意欲的に学習に取り組むことは、当然です。だから発言は多いし、授業は活気があります。先生たちはわかるまで教えてくれます。もちろん予習復習をする習慣は身につけなければなりませんでしたが、この中で6年間学んだのですから、進学の面でも心配はしていません。

私たちソフトボール部の目標は神奈川県大会優勝、インターハイ出場です。今まで5年間一緒に活動してきたチームは、県内の強豪と言われるまでになりました。厳しい練習や試合の苦しい場面で、同じチームの仲間と助け合い、時にはぶつかりながらも成長してきました。そして仲間とともに勝つ喜びを知ることができました。
入部して、まず教わったことは「あいさつ」と「マナー」でした。バスや電車の中で、先輩たちが席を譲ったり、周りのことを考えて迷惑をかけないように論してくれたことを今でも覚えています。「あいさつ」がしっかりできるようになると、不思議と試合にも勝つようになりました。
それからソフト部は、自主的に地域の清掃を月に1回行っています。そのせいか、試合の時には地域の方々が応援に来てくれます。応援してもらえるのはうれしいですよ。

将来の夢は何ですか。道徳の授業で先生から聞かれました。私は国際公務員になりたいと答えました。それは、先日の「ようこそ先輩」の授業で、JICAで働くA先輩の話聞いたからです。Aさんは現在も紛争が続くアフリカの国の話をしてくれました。その中で、少しでも多くの人を救おうと取り組む人々の姿に感動しました。「人の役に立つ人間になりなさい。」これは、いつも祖父から言われていたことです。私はそんな人間になるために、この学校でいろいろなことを学びたいと思います。
クラスみんなは、それぞれ夢を話しました。みんな、すてきな夢を話していました。先生は、「この学校は夢に向けてじっくりと取り組む6年間がある。先生たちは応援させてもらうからね。」と言ってくれました。

私は将来、マスコミで働きたいと思っています。それは、2年生から参加している難民ボランティアの活動を通して、国際問題に興味を持ったからです。
一緒に参加していた高校生の先輩が、英語で会話しているのを見てから、私も話せるようになりたいと英語をがんばってきました。今では、簡単な英会話ができるようになりました。この英語の力を伸ばし、自分のツールにしたいと思っています。そして、世界の問題を、自分の言葉で世界に伝えていきたいと考えています。
この学校は、自分の学びたいことをじっくりと学ぶことができる授業があります。私は、英語の力を伸ばす授業を選択しています。そして世界の問題を考え、自分の言葉で表現する総合的な学習にも取り組んできました。今度、その発表を全校生徒の前で行います。どうぞ、私の発表を聞いてください。

- 授業力の充実による学力向上
- *自ら学ぶ課題解決型の授業
 - *たしかな学力をゆとりをもって身につける 45分7時間授業
 - *興味関心に答える専門性の高い授業
 - *eラーニングの導入
 - *大学等の連携による科学と先端技術に触れる学習
 - *6年間の教育内容の体系化と学習の総合化
 - *高等学校の授業内容の先取り
 - *外部試験・資格試験の活用

- ◎人間力の育成
- 生徒が創る学校
 - *生徒による行事の企画運営
 - *学校・地域社会への愛着を育むための行事
 - 部活動の推進・充実
 - *6年間の一貫性のある部活動指導
 - *自己効力感と「誇り」の熟成
 - 社会貢献を目的とした体験活動の推進
 - *社会規範意識の熟成と礼儀・マナーの実践
 - *社会的スキル、人間関係形成力の育成
 - *社会貢献活動への積極的な参加

- 希望する進路の実現
- *ようこそ南高の先輩（卒業生による講座）
 - *6年間の計画的・継続的なキャリア教育の推進
 - *職業や進路に関わる体験の実施
 - *大学との連携講座の実施
 - *進路希望に対応する選択科目の充実

実現のための学校の取り組み例

- 日本語力を基礎としたグローバルコミュニケーション能力の育成
- *実践的な英語力の習得
 - *英語のみで生活する合宿
 - *海外研修旅行とホームステイ
 - *ディベートの活用

